

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目： 基盤研究（C）  
 研究期間： 2007～2010  
 課題番号： 19520305  
 研究課題名（和文） 中国古小説の話題事項集成

研究課題名（英文） Collection of topic matters on Chinese old tales

## 研究代表者

富永 一登 (TOMINAGA KAZUTO)  
 広島大学・大学院文学研究科・教授  
 研究者番号：70132636

研究代表者の専門分野：中国文学

科研費の分科・細目：各国文学・文学論

キーワード：中国古小説、太平広記、唐代伝奇、六朝志怪、古小説鉤沈

## 1. 研究計画の概要

中国の古小説は、六朝・唐の社会状況・風俗習慣・仏教道教の信仰形態などを知る手だてとして有用なだけではなく、日本あるいはアジアの諸地域、広くは世界の民話との関連性（例えば、シンデレラ物語の伝播など）を考える上で、貴重な資料を提供するものである。そこで、本研究では、中国古小説の類話検索のための利便性を高め、その利用価値をより広範なものにするために、原文の詳細な読解を通して、古小説の内容をできるだけ細かく日本語の項目に分類し、話を構成する事項（話題事項）の集成を行う。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 研究補助者の協力を得て、昨年抽出した、400巻分の一話ごとの話題・あらすじを構成する事項を整理する作業を行った。  
 (2) 『太平広記』許自昌本との字句の異同を検討した。  
 (3) 『太平広記』と『古小説鉤沈』の訳注作業を進めた。  
 (4) 研究会メンバーである留学生の研究補助者の協力のもとに南開大学の寧稼雨教授から受けとった六朝小説に関するデータをもとに、話題事項を日本語に訳しながら整理した。  
 (5) 『太平広記』500巻全体の話題事項を抽出し、各事項について検討した結果をパソコンに入力して整理するとともに、約7000話のあらすじを作成する作業を行った。魯迅輯『古小説鉤沈』についても、原典との交換作業を行いつつ訳注を進め、同様の作業を行う準備をした。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。  
 （理由）週1回の研究会を開催し、研究補助者との打ち合わせを欠かさず実施しているから。

## 4. 今後の研究の推進方策

このまま研究計画を実行し、22年度内に話題事項のデータベースを作り上げるようにする。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

①富永一登、魯迅輯『古小説鉤沈』校釈一『幽明録』(十三)、中国学研究論集、22、83-91、2009、査読無

②富永一登（『太平広記』研究会）、『太平広記』訳注（十三）一卷二百八十九「妖妄」（二）一、中国学研究論集、22、49-76、2009、査読無

③富永一登（『太平広記』研究会）、『太平広記』訳注（十四）一卷二百九十「妖妄」（三）一、中国学研究論集、23、1-38、2009、査読無

④富永一登、魯迅輯『古小説鉤沈』校釈一『幽明録』(十二)、中国学研究論集、20、134-142、2008、査読無

⑤富永一登（『太平広記』研究会）、『太平広記』訳注（十一）一卷二百八十七「幻術」（四）一、中国学研究論集、20、119-133、2008、査読無

⑥富永一登（『太平広記』研究会）、『太平広記』訳注（十二）一卷二百八十八「妖妄」（一）一、中国学研究論集、21、63-94、2008、査

読無

⑦富永一登、魯迅輯『古小説鈎沈』校釈一『幽明録』(十)、中国学研究論集、18、126-138、2007、査読無

⑧富永一登(『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注(九)一卷二百八十五「幻術」(二)一、中国学研究論集、18、100-125、2007、査読無

⑨富永一登、魯迅輯『古小説鈎沈』校釈一『幽明録』(十一)、中国学研究論集、19、62-73、2007、査読無

⑩富永一登(『太平広記』研究会)、『太平広記』訳注(十)一卷二百八十六「幻術」(三)一、中国学研究論集、19、41-61、2007、査読無

〔学会発表〕(計0件)